



みんなのできる 地球温暖化防止活動

— 森林の生物多様性が失われ始めていますと危惧します!! —

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク)

■クマの食糧であるドングリなどが……

獣医学博士でもある、うつくしま地球温暖化防止活動推進員の鈴木和隆さんは、心を痛めています。クマによる人身被害の件数が過去最悪のペースで増えているからです。お住まいの埴町の傾斜地のスギなどが枯れていると言います。当然、針葉樹のスギだけではなく、広葉樹にも影響があり、クマの食糧であるドングリ、クリ、クルミなども極端に減少しているはずだと推測しています。「地球温暖化が森林に与える影響についての調査研究はまだ少ないのですが、森林の生物多様性が失われ始めていますと危惧します。」鈴木さんは、奥久慈生物多様性研究会の代表も務めています。

■推進員になったきっかけ

「定年退職後に、小学校での環境教育の講師をした」と考えていました。そんな時に、回覧板で推進員の養成研修会があることを知り受講し、2015年に推

進員になりました。地球温暖化は大事な環境問題であると考えていたからです。「未来の森林の生物多様性を守るためには、子どもたちに環境教育として、地球温暖化の原因や防止の方法や適応の対策などを教えるければなりません。」

■講師としてお話をする時の心構え

小中学校で環境教育の講師をする時は、受講者の学年などを考慮して、写真やグラフなどを入れ分かりやすい講義資料の作成に努めています。特に、タイムスケジュールはしっかり作成し、講義の前に何回かリハーサルをするという念の入れようです。「学年により理解能力のレベルが違うので、下位者に焦点を当てて資料を作成します。地域の話題を入れると、子どもたちの関心が高まります。」

■みんなのできる地球温暖化防止活動

鈴木さんは驚いたと言います。「子どもたちが、森や川へ出かけて遊ぶことがほとんどなく、川魚の名前も知らないのです。事故防止のためであることは分かるのですが……」複雑な気持ちになると言います。

所有している山林や川で自然観察や体験、友だちや親子で遊べる環境教育の場を作りたいという夢を教えてくださいました。「薪ストーブで暖を取っています。」

(Web) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>